岐阜新聞　2024年12月14日付　県内

気になるニュース　わたしの視点

「お仕事体験」働く意識育む

道家経営・法務事務所代表 道家睦明さん

ショベルカーの操作体験

11月22日の西濃版に「ショベルカーの操作体験　大野小児童、建設の仕事学ぶ」という記事が出ていました。

最近、「お仕事体験」などの活動が小中学校で増えてきており、高校や大学でも産学連携などの話が多くなっています。また「オープンファクトリー」といった、地域の皆さんに工場内を自由に見てもらえるイベントも増えています。

一方で「構造的な人材不足状態」といわれており、「募集しても人が集まらない」「何とか採用できても、すぐに辞めてしまう」「若い人たちはどこへ？」といった言葉を、経営者の方などからよく聞きます。

実際の人口の推移を見てみると、14歳以下の年少人口はすでに1973年から下降傾向となっているのです。また、15歳から64歳の生産年齢の人口も、すでに95年をピークに減っています。つまり、「そもそも、人がいない」ということになっているのです。

また、マイナビ転職の新入社員の意識調査によると、「今の会社であと何年くらい働くと思いますか」という質問に「3年以内」という回答が、約28％という割合になっており、「10年以内」という回答は約半数にまでなっています。つまり「この会社で長く働きたいという人は、そもそも少ない」のです。

事業者は、省力化・デジタル化等を活用して人材不足を解決しようとしていますが、まだまだ進んでいないのが現実です。

養老町が「こども応援」宣言

子育て支援の充実図る

新春イメージ、情熱を表現

ショベルカーの操作 体験

大野小児童、建設の仕事学ぶ

署員に日頃の感謝

11月22日付12面（西濃地域面）より

しかし、その前に、素晴らしい製品やサービスを提供する事業者であることを知ってもらい、就職先の選択肢に入れてもらうことも大切なのではないでしょうか。また、そこで働いている人に接することで「お宅のお父さん、素晴らしい仕事しているね」「お母さんがお店で作っている料理、おいしかったよ」という言葉が出てこれば、後継者の不在問題も少しは解消できかもしれません。

そう考えると、「お仕事体験」は、ボランティア的な活動ではなく、働く意識の最初の一歩となっているのかもしれません。（引用記事は岐阜新聞デジタルの紙面ビューア14日付朝刊最終面に掲載）

どうけ・むつあき　1965年、羽島郡笠松町生まれ。慶応大商学部卒。中小企業診断士、行政書士。広告会社勤務を経て、道家経営・法務事務所代表取締役。2020年から愛知県立芸術大非常勤講師も務める。笠松町在住。

デジタル会員登録はこちら

©岐阜新聞